

住友電線製造所 遂に臨時休業

労資雙方の間に

大きな溝渠が横はる

住友電線製造所の執行委員七名が十七日午後三時二十分住友本館を訪問し山下理事と委員の上裏の要求を敷いた。然し要求を撤回して山下理事と論議して居た事は夕刊記事の通りであるが双方互に相譲らぬ議論は五時迄繼續したが結果は喧嘩様切りに終つた。

今後の誠意を 認めて呉れよ

言葉丈の誠
意に驚いた

実行委員談

右の會見に就て執行委員は語る。長時間の會見では此の場合問題を水な論し要求を撤回して今後の誠意を認めて呉れては貰ふこと云ふやうな語でその言葉は誠に結構なものであるがその半面誠意のない事には容れ入つた譯でモウ此の上は交渉の餘地も認めぬと同時に若くは又吾々の執るべき態度を速かに決せればならぬと語つて五十人程の執行委員の集合する馬車馬の香川源治氏方へ引取つた。

要求書は

お門違ひ

曩の回答以上
讓歩が出来ぬ

山下理事談

一方會見した山下理事は語る。彼等が電線製造所の職工で住友本館を訪問しては何等關係のないものであるから要求書はお門違ひとして突つ返しました。彼等は次から次へと委員なるもの委を遣んで要求して来るので眞に解するに苦しみ譯すも結局會社の態度としては曩の回答以上に讓歩する事は絶対に出来ぬ。

社側遂に 匙を投ぐ

依然たる職
工の怠業状態に

労資双方の態度は前記のやうな次第である。共に千三百の職工は出勤しても仕事に手を染めず。高業を續ける事とて會社は遂に業を棄てし二十日、二十一日、二十二日の三日間休業すべく十八日夜左の休業通知書を千三百の職工に郵送した。

拜啓通日來會社職工代表者より度々の御申出有之候ひしも當方としては最初に於て十分慎重に御協議の上御回答を致し候に於て此上如何とも致し候其邊の事情御諒解を得るため凡ての手段を盡したるは御承知の事と存候。然るにも尙ら今尙怠業を繼續され復業の氣配もなきは遺憾至極に存候。就ては止むなく来る二十日より二十二日迄三日間臨時休業致し此間に各位の御勤事を求むることに致候。御承知相成度此既御通知申上候也。

大正十年六月十八日

株式会社住友電線製造所

尙山下氏の口吻を付展するに職工の要求中電線製造所に限り犧牲者を出さざる事云ふ要求はないから解雇は無効論會社の自由である。依つて三日間の休

業後誠意なき職工に對しては、シシク解雇を命ずるやうな感觸があるらしい。十九日は會社の定休日であるから或は休業通知を手にするに同時に前記の執行委員の報告に依つて疲勞した職工は悪化の傾向を見せるかも知れないやうな形勢である。

本日報生演説

西區四馬路香川旅館に於て報告を終つた電線の執行委員三十餘名は今後の執るべき手段方法に就き協議を重ねた結果今後製鋼に脚を共同動作を取ると共に十九日午前十時から四馬路小學校前空地に於て爭議の報告演説會を開き尙午後は一大示威運動を

資本家攻撃で 氣勢を揚ぐ

製鋼職工

本日も演説會

住友電線製造所の執行委員は十八日午後七時頃から西區西九條下之町の執行委員事務所なる木村榮本館方に集合し午後四時より工場裏に於て行はれたる報告を徹底せしむべく五分間演説を聞いた。狭い家い七八十名がギッシリ詰つたので身動きも出来ぬ程に資本家の攻撃で頗る氣勢をあげた。十九日は午前九時から傳法町本業摩を爭議報告演説會を開く筈であつたが同所附近は空地の關係部致であるので麻生の拒絶に遭ひ會場を更に物色せねばならぬこととなつたが結局西九條下の町の空席鶴交館で開催する筈。

伸銅所は無事

製鋼電線の労働争議に共鳴して住友伸銅所も夫れが調中に投せんごするが如き形勢にあつたが尙労働の餘地があることゝ續然。即ち十八日の處では何等不穩の形勢はなかつた。